

テーマの設定理由

本園には豊かな自然環境がある。幼児は身近な自然とかわることを通して、驚きや発見、試したり工夫したりする等様々な姿が生まれている。これらの体験から、好奇心を高め探究する楽しさを味わう豊かな体験を積み重ねていきたいと考えたため。

活動スケジュール

12月16日、2月10日、2月16日、3月24日
園内研究会 協議会 講師より指導・助言

12月2日、1月26日、2月26日
冬の園庭、畑の自然散策
講師による指導・助言



*環境の構成（何をどのように準備したのかを記述）

- ・自然に積もった雪、たらいに集めた雪、前日に水を張り氷ができたバケツ等が園庭にある。幼児が雪や氷で遊ぶときに集めたり、試したりできるように、透明なプラスチックトレー・カップ、空き容器等の入れ物、スプーン、おたま等の用具を、種類ごとに用意し、自由に手にとって使えるようにした。

活動事例

雪と氷は違うの？（園庭で雪や氷に触れて遊ぶ）



- ・雪が降った翌日、園庭に雪が残り、バケツには氷が張っていた。多くの幼児が雪や氷に興味を示し、触れたり集めたりしていった。じっくりとかかわる中で幼児に対して「雪と氷は違うのかな？」という問いかけをした。
- ・雪を入れ物に入れたり、繰り返し感触を楽しんだりする中で、様々なことに気付いた。

振り返りを踏まえた気付き

○雪・氷に触れて遊べるように環境として場や物を設定し、時間を十分に確保した。そして、教師は幼児が雪や氷との出会いを楽しめるように関わった。幼児はじっくり遊ぶことで、雪と氷の見た目や感触（硬さ）の違い、溶け方等、様々なことに気付いていた。また、「雪は（絵の具で）赤くなったけど、氷はならなかった」など、違いを捉えていた。

○「雪と氷は違うのか？」を学級で共有すると、様々な思いを表していた。「氷の入ったコップにジュースを入れても、氷は透明のままだから色は付かないよ」という考えは、幼児が直接体験から得たことが家庭生活とつながり、幼児なりの学びとなったことが分かった。